REFERENCE NO.

5

In re application of: Tony Wai-Chiu So et al.

Application No.: 09/673,872 Filing Date: December 4, 2000

Attorney Docket No.: 021706-000800US

FOWERED BY Dialog

6-Amino-1,2-dihydro-1-hydroxy 2-imino-pyrimidine compsn. - used for stimulating hair growth, comprises mixt. of diol(s) and/or triol(s) with specified higher fatty alcohol as penetration enhancer

Patent Assignee: PROCTER & GAMBLE CO

Inventors: KASTING G B; MASSARO E R; SMITH R L; SNYDER W E

Patent Family

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Week	Туре
EP 249397	Α	19871216	EP 87304945	Α	19870604	198750	В
AU 8774182	Α	19871217				198806	_
FI 8702630	Α	19871214	-			198810	
JP 63045212	Α	19880226	JP 87146806	Α	19870612	198814	
US 5041439	Α	19910820	US 90616043	Α	19901120	199136	
IL 82855	Α	19920525	IL 82855	Α	19870611	199225	
CA 1302269	С	19920602	CA 539566	Α	19870612	199228	
EP 249397	B1	19920812	EP 87304945	Α	19870604	199233	
DE 3781034	G	19920917	DE 3781034	Α	19870604	199239	
			EP 87304945	A	19870604		
ES 2042564	T3	19931216	EP 87304945	Α	19870604	199403	
JP 2562455	B2	19961211	JP 87146806	Α	19870612	199703	

Priority Applications (Number Kind Date): US 86874248 A (19860613); US 90616043 A (19901120)

Cited Patents: A3...8812; EP 129283; EP 43738; EP 95813; No search report pub.; US 4139619; EP 129285

Patent Details

Patent	Kind	Language	Page	Main IPC	Filing Notes
EP 249397	Α	E	16		
EP 249397	B1	E	16	A61K-007/06	
DE 3781034	G			A61K-007/06	Based on patent EP 249397
ES 2042564	Т3			A61K-007/06	Based on patent EP 249397
JP 2562455	B2		12	A61K-007/06	Previous Publ. patent JP 63045212
IL 82855	Α			A61K-007/06	
CA 1302269	C			A61K-031/53	

Abstract: EP 249397 A

A penetration-enhancing pharmaceutical compsn. for topical applicn. comprises: (a) a safe and effective amt. of a 6-amino-1,2-dihydro -1-hydroxy-Z-iminopyrimidine cpd. of formula (I) or salt., (where R2, R3 = H lower alkyl, lower alkenyl, lower aralkyl or lower cycloalkyl; or NR2R3 = aziridinyl, azetidinyl, pyrrolidinyl, piperido, hexahydroazopinyl, heptamethylenimino, octamethylenimino, morpholino or 4-lower alkyl piperazino gp. all opt. C-substd. by 0-3 lower alkyl, OH or alkoxy gps.; and R1 = H, lower alkyl, lower alkenyl, lower alkoxyalkyl, lower cycloalkyl, lower aryl, lower aralkyl, lower alkanyl, lower alkaralkyl, lower alkoxyaralkyl, lower haloaralkyl); (b) 0-90 wt.% water, EtOH, or iPrOH; and (c) 5-99.9 wt.% penetration-enhancing carrier comprising: (i) a small polar solvent from 1,2-propanediol, 1,2-butanediol, 2,3-butanediol, 3-6C triol, or mixts.; and (ii) a polar lipid cpd. from 16C mono-unsatd. alcohols, 16C branched satd. alcohols, 18C mono-unsatd. alcohols, 18C branched alcohols, or mixts.; in (i):(ii) wt. ratio 1:1-500:1 (5:1-100:1).

USE/ADVANTAGE - (I) are known antihypertension agents when used systemically, but are used topically to increase terminal hair growth and to stimulate the conversion of vellus hair to growth as terminal hair. The compsns. may be used to treat alopecia in humans; or to improve the pelts of animals (e.g. mink) or treat bald patches such as caused by mange on cats and dogs. etc.

0/0

EP 249397 B

A penetration-enhancing pharmaceutical composition for topical application characterised in that it comprises (a) a safe and effective amount of 6-amino-1,2-dihydro- 1-hydroxy-2-imino -4-piperidino-pyrimidine and pharmaceutically acceptable acid addition salts thereof; (b) 0% to 90% by weight of a solvent selected from water, ethanol or 2-propanol; and (c) 5% to 99.9% by weight of a penetration-enhancing carrier consisting essentially of: (i) a small polar solvent selected from 1,2-propanediol, 1,2-butanediol, 2,3-butanediol, C3-C6 triols, or mixtures thereof, and (ii) a polar lipid compound selected from C16 mono-unsaturated alcohols, C16 branched chain saturated alcohols, C18 mono-unsaturated alcohols, C18 branched chain alcohols, and mixtures thereof; wherein said small polar solvent and said polar lipid compound are present in a ratio of solvent; polar lipid compound of from 1:1 to 500:1, and further characterised in that the composition contains less than 3.5% of any single compound selected from C4, C6 and C18-C20 straight chain, saturated normal fatty alcohols, and C4-C20 straight chain, saturated mono and dicarboxylic acids. (Dwg. 0/0)t

US 5041439 A

Penetrating pharmaceutical compsns. (I) for topical appln. comprise (A) 0.01-10 wt.% of a 1-hydroxy-2-iminopyrimidine deriv. of formula (II) or a suitable acid addn. salt, where R2-3 are each H, alkyl, alkenyl, aralkyl or cycloalkyl, or together with the N atom, may form cpd. substd.:- aziridinyl, azetidinyl, pyrrolidinyl, piperidine, hexahydroazepinyl, heptamethyleneimino, octamethyleneimino, morpholine or 4-alkyl piperazinyl, (B) 0-90 wt.% of a solvent (water, EtOH or 2-propanol) and (C) 5-99.9 wt.% of a penetration-enhancing carrier consisting of (a) a polar solvent which is 1,2-propanediol, 1,2-butanediol, 1,3-butanediol, 2,3-butanediol, or 3-6C triol or mixts. of these and (b) a polar lipid cpd. (isocetyl alcohol), (a) and (b) being used in a wt. ratio of from 1:1 to 500:1.

USE - 1-10 mg/cm² of (I) are applied to increase terminal hair growth.

Derwent World Patents Index © 2003 Derwent Information Ltd. All rights reserved. Dialog® File Number 351 Accession Number 7353069 19日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

四公開特許公報(A)

昭63-45212

@Int_Cl_4

識別記号

厅内整理番号

❸公開 昭和63年(1988)2月26日

A 61 K 7/06 31/505 // A 61 K 47/00

ADA

7430-4C 7252-4C E-6742-4C

審査請求 未請求 発明の数 2 (全15頁)

9発明の名称 改善された浸透性局所用医薬組成物

②特 顋 昭62-146806

20出 **夏 昭62(1987)6月12日**

優先権主張 @1986年6月13日 9米国(US) @874248

ス、カスティング

@発 明 者 ジェラルド、ブルー

アメリカ合衆国オハイオ州、ワイオミング、マウント、プ

レザント、44

外2名

②発 明 者 エレン、ランド、マサ

アメリカ合衆国オハイオ州、シンシナチ、ハーパー、ポイ

ント、ドライブ、8892 ピー

①出 願 人 ザ、プロクター、エンド、ギヤンブル、カン

アメリカ合衆国オハイオ州、シンシナチ、ワン、プロクタ

ー、エンド、ギヤンブル、プラザ(番地なし)

パニー

②代理人 井理士 佐藤 一堆

最終頁に続く

明細書

1. 発明の名称

改善された浸透性局所用医薬組成物

2. 特許請求の範囲

1. (a) 下記式のヒドロキシイミノビリミジ · ン化合物:

(上記式中、R₂及びR₃は水米、低級アルキル、低級アルケニル、低級アラルキル及び低級シクロアルキルから選択されるが、一結になってR₂及びR₃はアジリジニル、アゼチジニル、ピロリジニル、ピペリジノ、ヘキサヒドロアゼピニル、ヘブタメチレンイミノ、モ

ルホリノ及び4・低級アルキルピペラジニルから 選択されるヘテロ環部分であってもよく(上記へ テロ環部分の各々は炭紫原子上に置換基として 0 ~3個の低級アルキル基、ヒドロキシ又はアルコ キシを結合している)、上記式中、R₁は水紫、 低級アルキル、低級アルケニル、低級アルコキシ アルキル、低級シクロアルキル、低級アリール、 低級アカキル、低級アルカリール、低級アルカ ラルキル、低級アルコキシアラルキル及び低級ハ ロアラルキルから選択される)

及びその英学上許容される破付加塩の安全有効量:

(b) 水、エタノール又は2・プロパノールから選択される溶媒0~90重量%:並びに

(c)(l) 1. $2 \cdot$ プロパンジオール、1. $2 \cdot$ プタンジオール、1. $3 \cdot$ プタンジオール、2. $3 \cdot$ プタンジオール、 $C_3 - C_6$ トリオール 類又はそれらの混合物から選択される小概性冷媒、

(ii) C₁₆モノ不飽和アルコール類、

及び

C 16分岐域状的和アルコール類、C 18モノ不飽和アルコール類、C 18分岐域状アルコール類及びそれらの混合物から選択される極性脂質化合物から実質上なる浸透性地強損体5~99.9重量%(上記小極性溶媒及び上記極性脂質化合物は、1:1~500:1、好ましくは5:1~100:1の溶媒:極性脂質化合物の重量比で存在する);を含有することを特徴とする局所建布用浸透性増強医薬組成物。

- 小極性溶媒が1、2・プロパンジオール、
 ・ブタンジオール、1、3・プタンジオール、
 3・プタンジオール又はそれらの混合物から 選択される、特許請求の範囲第1項記載の組成物。
- 3. 0.01~10銀量%のヒドロキシイミ ノビリミジン成分を含有する、特許請求の範囲第 1又は2項記載の組成物。
- 4. ヒドロキシイミノビリミジン成分が6・アミノ・1、2・ジヒドロ・1・ヒドロキシ・2・イミノビリミジン及びその薬学上許容される酸付加塩から選択される、特許請求の範囲第1~3

アルコール類、C₁₈分岐類状的和アルコール類及びそれらの混合物から選択される極性脂質化合物から変質上なる浸透性増強担保5~99.5重量%(上記ジオール及び上記遊性脂質化合物は、10:1~100:1のジオール:極性脂質化合物の重量比で存在する);

を含有することを特徴とする局所塾布用没透性均 徴災薬組成物。

- 8. ジオール化合物が1,2・プロパンジオールである、特許請求の範別第7項記載の組成物。
- 9. 機性脂質化合物がオレイルアルコール、イソセチルアルコール及びそれらの混合物から選択される、特許請求の範囲第7又は8項記載の組成物。
- 10. C_4 、 C_6 もしくは C_{18} - C_{20} 直額状 飽和n-脂肪アルコール類及び C_4 - C_{20} 直額状 飽和モノ・もしくはジカルポン酸を実費上含有し ない、特許請求の範囲第1~9項のいずれか一項 に記載の組成物。

項のいずれか一項に記載の組成物。

- 5. 域性能質化合物がオレイルアルコール、イソセチルアルコール及びそれらの混合物から選択される、特許額求の範囲第1~4項のいずれか一項に記載の組成物。
- 6. 小板性溶媒化合物が1、2・プロパンジオール、1、2・プタンジオール及びそれらの設合物から選択される、特許請求の範囲第1~5項のいずれか一項に記載の組成物。
- 7. (a) 6・アミノ・1. 2・ジヒドロ・1 -ヒドロキシ・2・イミノビリミジン又はその選 学!許容される験付加塩0. 25~5 収益%;
- (b) 水、エタノール又は2-プロパノールから選択される溶媒の~90個最終;並びに
- (c)(i) 1.2・プロパンジオール、1. 2・プタンジオール又はそれらの混合物から選択 されるジオール
- (11) C_{18} モノ不飽和アルコール類、 C_{18} 分岐前状飽和アルコール類、 C_{18} モノ不飽和

3. 発明の詳細な説明

技術分野

本発明は、ミノキシジルのような公知のヒドロキシイミノピリミジン薬剤を含有する改良された 局所用組成物に関する。他の薬学的性質の中で、 ミノキシジルは硬毛の発達を促進しかつ飲毛の要 機を刺激して硬毛として発達させる上で有効であることが開示されている。

発明の背景

脱毛(はけ)、毛の火乏は、正常又は異常のいずれにしても、主に人間における外面上の問題である。それは硬毛、即ち容易に目視し得る広域にわたる有色毛の欠乏である。しかしながら、所謂はげた人においては硬毛の顕著な欠落があるけれども、皮膚は視覚にとらえる上で顕微鏡接近が必要かもしれないが軟毛(如い無色の毛)を育している。この軟毛は硬毛の前駆体であろう。

式 (1) の1, 2・ジヒドロ・1・ヒドロキシ ビリミジン類は全身的に使用された場合に抗資血 圧剤として有用であることが知られている。

$$= \begin{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_1 & 1 & 1 & 1 \\ R_2 & 1 & 1 & 1 \\ R_3 & 1 & 1 & 1 \\ R_4 & 1 & 1 & 1 \\ R_5 & 1$$

有効であることについては見出されていない。

哲毛促進剤用の局所用ピヒクルとして有用であるためには、ピヒクルは4つの厳格な必要条件を 歳たさねばならない:

- (I) ピヒクルは皮膚を介しての薬剤の浸透を高めることができなければならない;
- (2) ピヒクルは美容上許容される英観性を行していなければならない:
- (3) ピヒクルは皮膚を刺激してはならない;及び
- (4) ピヒクルは、例えばくし又は衣頭よりも頭皮 又は皮膚に対して優先的に直接的でなければなら ない。数額のピヒクル類はこれら条件のうちいく っかを満たすが、最良のピヒクルはこれらのすべ てにおいて最適であろう。

式 (1) のヒドロキシイミノビリミジン化合物は、従来のピヒクルよりも一層浸透性を高めた特定のピヒクル中にそれらを混入させることによって経皮的に効果的に放出せしめ得ることが、ここに見出されたのである。しかも、このピヒクルは上記よつのすべての必要条件を満足する。したが

コキシアラルキル又は低級ハロアラルキルである。 これらの化合物が局所设分された場合に、それら は牧毛の硬毛への要換を刺激しかつ硬毛の牧毛へ の変質を防止するように作用することも数示され ている。要するに、これら化合物の局所的使用は 認められるほど哺乳動物の毛の発達を増強させる ことが教示されている。

って本発明は、ミノキシジルのような1.2・ジヒドロ・1・ヒドロキシイミノピリミジン化合物の哺乳動物質や効果を高め得る英観上許忍可能な周所用ピヒクルを提供するものである。 更に詳しくは、極性脂質化合物及びジオールもしくはトリオール化合物を含有する特定の二成分界面活性剤系は1.2・ジヒドロ・1・ヒドロキシイミノピリミジン化合物(式(1))の同所的放出性を整実にかつ者しく改善し得ることが発見されたのであった。

1969年8月12日発行のアンソニー(Anthony)らの米田特許第3、461、461号明知書は、6・アミノ・1、2・ジヒドロ・1・ヒドロキシ・2・イミノビリミジン類について開示し、これら化合物の抗震血圧剤としての用途に関し記載している。哺乳動物育毛促進のためのこれら化合物の局所投与に関しては、1979年2月13日発行のチドセー(Chidsoy)皿の米国传許第4、139、619号明知書に開示されている。機準水性溶液、軟件及びクリーム、例えばプロビ

レングリコール、エタノール、n・メチルピロリドン又はベトロラクムを基剤とするこれらのものは、局所的処方用に使用される。非常に類似した化合物群、即ち6・アミノ・1・2・ジヒドロ・1・ヒドロキシ・2・イミノ・4・フェノキシピリミジン類は、1968年5月7日発行のアンソニーらの米国特許第3、382、247号明細書に開示されている。6・競換・4・アミノ・1、2・ジヒドロ・1・ヒドロキシ・2・イミノピリミジン類の製造方法は、1972年2月22日発行のアンソニーの米国特許第3、644、364号明細書に開示されている。

1978年2月24日発行のエッカー (Ecker) の米国特許第4、070、462号明制者は、(1)1、2・プロパンジオール、2、3・プタン ジオール又は2・メチル・2、4・プロパンジオール5~15%; (11)プロピレングリコールモノステアリン酸エステル1~3%; 並びに(111)100%とするペトロラタム及びワックスを含有する局所用ピヒクルについて開示している。

と報告されており、非経口的、経口的又は紛所的 に没与することができる。9 - (2 · ヒドロキシ エトキシメチル) グアニンは特に好ましい活性剤 として開示されている。

1985年11月12日発行のクーパー(Cooper)らの米国特許第4、552、872号明細書はコルチコステロイド類、並びに選択されたジオール類及び細胞外被障害性化合物からなる皮膚浸透性増強ピヒクルを含育した局所用医薬組成物について開示している。これらの組成物は局所投与によって全身的活性量のコルチコステロイド類を与えることが記載されている。同様の開示は1984年12月27日公開の欧州特許出願第129、283号明細書に示されている。

1985年12月10日免行のクーパーの米協 特件第4.557.934号明細書は、いずれか の広範囲の医療活性制をジオール化合物及び1・ ドデシルアザシクロへブタン・2・オンとともに 含有する周所連布用医薬組成物について開示して いる。1984年12月27日公開の欧州特許 1980年7月23日公開の欧州特許出版第 13、459号明即書は孫琦治協用の組成物について開示している。これらの組成物は、過酸化ベンソイル、C6-C14-数アルコール領並びに1、2・プロパンジオール、1、2・プタンジオール、1、3・プタンジオール及び2、3・プタンジオールから選択されるジオールを含有する。

1982年1月13日公開の欧州特許出願第 43、738号明期者は局所用組成物について記載している。開示された組成物は、選択されたジオール類と一緒に一級アルコール類又は各種のカルボキシレート化合物を用いた額油性の薬理活性化会物の効果的放出用として適している。

1983年12月7日公開の欧州特許出願が 95.813号期知者は、6・及び2.6・置模 プリン類の9・ヒドロキシエトキシメチル(及び 関連)誘導体の浸透性を補助するためにジオール 及び細胞外被除害性化合物を用いた二成分浸透系 について開示している。これらのプリン化合物は ウイルス感染、特にヘルペスの治療に育効である

第129、284号明知者についても参照。 1985年8月27日発行のクーパーの米国特許 第4、537、776号明和書は、いずれかの 止頼明の医薬活性剤をN・(2・ヒドロギシエ チル)ピロリドンとともに含有する局所途布用 医薬組成物について開示している。同様の開示は 1984年12月27日公開の欧州特許出類 第129、285号明知者で示されている。

1986年2月18日公開の欧州特許出願 第171、742号明知書は、ユーザーに全身的 活性量のオピオイド類を与える局所用組成物について開示している。浸透性増強局所用ピヒクルは、 少なくとも1組の炭素原子8~15個の超和振動 酸もしくは脂肪アルコールとは炭素原子8~18 個の不飽和脂肪アルコールもしくは脂肪酸、及び プロピレングリコールのような薬学的担体を含有 する。

1. 2 - プロパンジオール (*プロピレングリコール*) 及び C₁₀ - C₁₄ アルコール競は、化粧品及び逐興の処方制中で別々に使用されてきた。

特に、プロピレングリコールは、文献中のいくつかの論文において、コルチコステロイド類のような一定の異理活性剤の浸透性を高めるものとして記載されていた。ロスオールド・ジェイら、"飲借からのコルチコステロイド類のイン・ピトロ放出及びイン・ピポ吸収に関する処方効果"、メド・ノブスク・ファブム・セルスク、第44巻、第21-45頁、1982年(Rosuold.J..et al..

Effect of Formulation on In Vitro Roleaso and In Vivo Absorption of Corticostoroids [rom Olntments Nedd. Novsk Favm Selsk. 44, 21-45(1982)] 参照: 更には、アンジョー・デー・エムら、*人間における経皮的浸透性の予測方法*、ステロイド観の経皮的吸収、第31-51頁、アカデミック・プレス、ニューヨーク、ニューヨーク州、1980年(Anjo.D.N., et al..

"Nethods for Predicting Percutaneous

Penetration in Man". Percutaneous

Absorption of Steroids.pp31-51.Academic

Press. New York.Now York(1980) 1 28 M.

ン1. 1%含有のインドメタシン軟質について開 示している。

ピー・アイドソン、コスメティクス・アンド・トイレトリーズ、第95巻、第59頁、1980年(B. Idson. Cosmotics & Tollotries, 95,59(1980))は、薬剤浸透性、ひいては大半の場合において有効性に影響を与えるファクターは復凝であると述べている。彼は、ある薬剤について理想的な浸透条件を与えるピヒクルは他の薬剤にとって不十分であることを観察している。著者は、予測は顔単ではなく、しかも製品の適合性は人間での試験により評価されなばならない、と結論している。

1981年11月10日発行のルイーダーズ (Luedders)の米国特許第4,299,826号 明知者は、エリスロマイシン誘導体用の投資性増 強削としてアルコールと一緒にセバシン酸ジイソプロピルを含有する座債治旋川和成物について開示している。

1970年10月20日のコックス(Cox)らの米雨待炸第3.535.422号明和者は、 C_4 - C_{20} 脂肪族アルコール類、 C_{2} - C_{3} グリコール類、 C_{12} - C_{20} 脂肪酸類、それらのエステル類及びそれらの混合物から選択される有機皮膚軟化剤を含育した尖定な過酸化ベンソイル和成物に関する。

1978年1月24日発行のエッカー (Eckor) の米国特許第4, 070, 462号明細審は、プロピレングリコール6%及びプロピレングリコールモノステアリン酸エステル1%を含有する局所用ステロイド組成物について開示している。

1980年2月19日発行のシポス (Sipos)のカナダ特許第1,072,009号明和書は、C₅-C₁₀直鎖状アルコール類又は最長級がC₅-C₁₀のC₁₇分岐鎖状アルコール類を含有した局所用抗菌剤和成物について開示している。

ケミカルアプストラクト、第92巻、第153 頁、181 J (CA・<u>92</u>・158 181j) は、プロピレ ングリコール10%及びジイソプロパノールアミ

発明の要約

本発明は、人間及び動物の資毛を刺激するための改善された局所用組成物及び方法に関する。本 発明は、概性脂質化合物及び小極性溶媒 (ジオール又はトリオール化合物) の十分に定義された二 成分配合物と一緒における特定のヒドロキシイミ ノビリミジン化合物の使用に基づいている。

本免明の組成物は、C₁₆モノ不約和アルコール 類、C₁₆分較鎖状的和アルコール類並びにC₁₈モ ノ不約和及び分岐鎖状的和アルコール類立域、例えば オレイルアルコール又はイソセチルアルルコールか ら選択される極性脂質化合物とともにプロピレン グリコール等のC₃ーC₄ジオール又は1.2.6 ・ヘキサントリオールでのC₃ーC₆トリオー ルを含有する。このピヒクルは節和 定義の特定のヒドロキシイミノピリミジルは節和 が状C₄ーC₆及びC₁₈ーC₂₀一級アルコール が近にC₄ーC₂₀モノ・又はジカルボン設質 型上含有しないことが好ましい。広範囲の極性脂

質化合物を含有する局所用ビヒクルは公知であるが、改善された皮膚浸透性、無皮膚刺激性、許容される実質性及び頭皮/皮膚直接性を示すビヒクルがヒドロキシイミノビリミジン化合物用として処力し得るのは、これらの特に定義された C 16 又は C 14 アルコール類を使用した場合だけである。

本発明は、人間又はより下等の動物に安全有効 量の組成物を局所役与することからなる、人間又 は動物における育毛刺激方法にも関する。組成物 はかかる治療が必要な質所で原布される。

発明の具体的な説明

木明和書で用いられる「局所投与」とは、外部の皮膚(膜表皮組織)又は毛上に直接迫るか又は 拡散させることを意味する。

本明細書で用いられる"安全有効量"とは、いかなる医学的治療においても妥当な効果/危険比で望ましい育毛刺激効果を与える組成物の十分量を意味する。正常な医学的判断の範囲内において、使用され業学的活性剤の量は、治療すべき具体的症状、症状の重慎度、症状の原因、治療期間、使

川される具体的活性化合物、その設度、使用される具体的ピピクル、患者の一般的健康度、患者に投与される他の報酬、及び患者又はかかりつけの 医者の具体的知識及び専門技術に属する他の同様 のファクターによって変動する。

本明報者で用いられる。山物学上作窓される。 又は。製学上許容される。とは、用語が示す戦物、 薬剤又は不活性成分が、人間及びより下等の動物 の組織と接触した場合に毒性、刺激、アレルギー 反応等を起こさずに妥当な効果/危険比で使用す ることに適していることを意味する。

本明細書で用いられる。含有する。という話は、不可欠な二成分系浸透性増強ビヒクル及び悪学的活性剤が本明細書に開示の方法で使用される限りにおいて、他の様々な相溶性素物及び薬剤、並びに不活性成分、閉塞性薬剤及び化粧用ビヒクルが本発明の組成物及び方法で一緒に使用されることを意味する。。含有する。という話はしたがって、本明細書記載の方法での必須成分の使用を特徴とするより制限的な用語。からなる。及び。から実

質上なる。を包含している。

本明和書で用いられる"空布族所"とは、實毛 刺激が望まれる局部領域を意味する。人間の場合、 空布袋所は、例えば、頭部、陰部領域、上層、ま ゆ及びまぶたである。毛皮用に飼育される動物 (例えばミンク)の場合では、塗布協所は面柔的 理由から毛皮全体を改善する上で体表面全体にわ たる。本発明は、動物における外面的理由のため にも、例えば新異又は他の炭巣により毛欠損の をもつ犬又は猫の皮膚への適用のためにも利用す ることができる。

本明細書で用いられる"浸透性増強"とは、本 危明の二成分系浸透性増強担体が、阿等の化学ポ テンシャルで他の組成物と比較した場合に、会有 せしめられる6・アミノ・1、3・ジヒドロ・1 ・ヒドロキシ・2・イミノビリミジン化合物の若 しい経表皮的又は経皮的放出性を示すことを意味 する。この後者の面は重要であるが、その理由は 異なるビヒクル中における瞬制の溶解性の変動が それらの皮膚を介する輸送性に必ず影響を及ばす

本明細書で用いられる「実質上含有しない」とは、本発明の浸透性増強和成物及び担体がかかる 用語で記載されるいかなる単独もしくは特定の化 合物又は化合物群を約3.5%未減、評ましくは 約1%未減、最も好ましくは約0.5%未減でし か含有しないことを意味する。

本明知者で川いられるすべての%は、他に指示 のない限り重量%である。

本発明の組成物は、少なくとも、下記のような、 ヒドロキシイミノビリミジン化合物、ジオールも しくはトリオール化合物 (小挺性溶媒)及び Cig もしくはCIBアルコール化合物(脳性脂質)を要 する。本発明の組成物は、皮膚刺激性を減少させ 乂はその外面的魅力及び許容性を高める任意的な 慣用的成分、即ち増粘剤、頬料等を更に含有する こともできる。好ましくは、本組成物は沙透阳舎 性の直鎖状C₄、C₆もしくはC₁₈-C₂₀鉛和一 級アルコール弧及び C_4-C_{20} モノ・もしくはジ カルポン酸類を実質上含育しない。

本発明の菓学的活性成分をなすヒドロキシイミ ノビリミジン化合物は、周所適用された場合に幅 乳動物の育毛を刺激するものとして当該技術分野 では知られている。これらの化合物は6・アミノ · 1, 2 · 3 ヒドロ · 1 · ヒドロキシ · 2 · イミ ノビリミジン類であって、下記式:

容される酸付加塩類から選択することができる。

本発明における使用にとって特に好ましい化合 物は、遊離塩基又は塩酸塩の形の6・アミノ・1。 2 - ジヒドロ・1 - ヒドロキシ・2 - イミノ - 4 - ピペリジノビリミジンである。この化合物 (II) は商品名ミノキシジル(Minoxidil^R) と同一物で あって、アップジョン社 (Upjohn Company) 、カ ラマズー、ミシガン州から十分に処方された鮫剤 ロニテン(Loniten®) として市阪されている。こ の化合物の他の適切な酸塩類の例としては、リン 酸、酢酸、クエン酸又は乳酸の塩類がある。

本発明で使用されるヒドロキシイミノピリミジ ン化合物及びこれら化合物の合成方法については、 下記免行米国特許明期者において詳細に記載され ており、これらのすべては恋考のため本明知告中

(上記式中、R₃及びR₂は水米、低級アルキル、 低級アルケニル、低級アラルキル又は低級シクロ アルキルから選択される) を有する。Rっ及び Rっは一緒になって、アジリジニル、アゼチジニ ル、ピロリジニル、ピペリジノ、ヘキサヒドロア ゼピニル、ヘプタメチレンイミノ、オクタメチレ ンイミノ、モルホリノ又は4・低級アルキルピペ ラジニルから選択されるヘテロ環部分を形成する こともでき、これら各々のヘテロ環部分は炭素原 子上の置換基としてロー3個の低級アルキル基、 ヒドロキシ又はアルコキシを結合している。R、 は水素、低級アルキル、低級アルケニル、低級ア ルコキシアルキル、低級シクロアルキル、低級ア リール、低級アラルキル、低級アルカリール、低 极プルカラルキル、圧級アルコキシアラルキル、 低級ハロアラルキル及びこれら化合物の薬学上許 に包含される: 1969年8月12日発行のアン ソニーらの米国特許第3, 461, 461号; 1968年5月7日発行のアンソニーらの米国特 祚第3, 382, 247号; 1972年2月22 日発行のアンソニーの米国特許 第3. 644. 364号:及び、1979年2月 13日発行のチドセー亚の米国特許

第4.139.619号。

本発明の組成物は安全有効量のヒドロキシイミ ノビリミダン活性成分を含育しており、好ましく は組成物は約0.01%~約10%、更に好まし くは約0. 25%~約5%、最も好ましくは約1 %の上記成分を含有する。勿論、活性成分量は、 治療すべき症状の性質及び原因、塗布される表面 積、選択される具体的ピヒクル、並びに堕布方法 によって変動する。

ピヒクル

水苑明のピヒクルはヒドロキシイミノピリミジ ン活性成分の皮膚浸透性を育意に高める。それら は、少なくとも極性筋質化合物とともにジオール 又はトリオール(小極性溶媒)を含有する。

水発明の組成物及び方法において使用される ジオール、1、3・プロパンジオール、1、2・ プタンジオール、1、3・プタンジオール、1. 4・プタンジオール又はこれらジオール化合物の 混合物がある。1、2・プロパンジオール及び1, 2・プクンジオールが好ましいジオール化合物で ある。1、2・プロパンジオールは特に好ましい 化合物であって、好ましくは全組成物中少なくと も約7. 5%の量で使用される。本発明で使用さ れるCa-C6トリオール化合物としては、例え ばグリセロール、1, 2, 6・ヘキサントリオー ル、1, 2, 5 - ペンタントリオール、1, 2, 4-プタントリオール、1.2.5-ペキサント リオール又はトリオール化合物の混合物がある。 好ましいトリオール額はグリセロール及び1, 2, 6・ヘキサントリオールである。ジオール及びト リオール化合物の混合物も使用し得る。

本発明の組成物及び方法において使用される極

性である組成物を得るために、極性脂質化合物として特定の上記アルコール領を使用することが必要である。このことは、本発明の好ましい成分たるオレイルアルコールが周所強布時に皮膚に刺激を与えるとして当族技術分野において開示されてきたところから、特に驚きに値する。オレイルアルコールが本発別において使用される場合、それは全組成物中少なくとも約0.25%の量で使用されるべきである。

ジオール/トリオール化合物:極性脂質化合物の可能比約1:1~約500:1のいずれかの上記ジオール又はトリオール化合物と極性脂質化合物との二成分系混合物は、本明細書記載のヒドロキシイミノピリミジン化合物の浸透性を有意に高める。ジオール/トリオール化合物:極性脂質化合物の比約5:1~約100:1が好ましく、浸透成分は最も好ましくは約10:1~約100:1の比で存在する。透めて好ましい感域では、浸透成分は約15:1~約50:1の比で存在する。

本発明の組成物は、典型的には、上記比のジオ

性脂質化合物としては、 C_{10} もしくは C_{18} モノ不 昭和又は分岐類状昭和アルコール類がある。これ ら化合物の例としては、 Δ^9 C_{18} : 1 オレイルアルコール、 Δ^9 C_{16} : 1 パルミトレイルアルコール、 Δ^9 C_{14} : 1 ミリストレイルアルコール、 C_{14} : 0 ミリスチルアルコール、 Δ^9 C_{18} : 1 エライジルアルコール、 Δ^{11} C_{18} : 1 パクセニルアルコール(シス又はトランス)、 Δ^6 C_{18} : 1 ペトロセリニルアルコール、 Δ^6 C_{18} : 1 ペトロセライジルアルコール及びそれらの混合物がある。 好ましい 概性脂質化合物としては、オレイルアルコール、イソセチルアルコール及びそれらの混合物がある。

他の極性所覚(細胞外被障害性)化合物、例えばオレイン酸、ラウリン酸メチル、モノオレイン及びミリスチルアルコールは特定の局所用ピヒクル中での使用を目的として開示されてきたが、育毛刺激用のヒドロキシイミノピリミジン処方剤においては、活性剤の皮膚浸透性を高め、皮膚を刺激せず、炎観上許容されかつ皮膚及び頭皮に直接

ールもしくはトリオール化合物及び極性脂質化合物の浸透性増強二成分系混合物を約5~約99.9 重量%、好ましくは約10~約99.5 近量%含有する。

上紀毎先順位は、浸透性を最大にする場合のみ 妥当する。特定の局所用処方制では、しかしなが ら、美観及び英容上の特質が同答又は最高に重要 である。したがって、上記以外の範囲が好ましい ことになる。一股に、重量: 重量比約1:1~約 10:1の組成物は、約10:1~約50:1の **銀量比で同一成分を用いた系と同様の浸透性増強** を示すことはない。しかしながら、このような比 (1:1~10:1) はより使れた英観性を示す ことから、特定のピヒクル又は系にとって好まし い。通常最大の浸透性を示しはしないものの、か かる英観的に好ましい組成物は、それにもかかわ らず、慣用的な又は技術的に関示されたピヒクル 又は系と比較した場合に、若しく高い浸透性を示 すことに留意すべきである。全組成物中約20% ~約45%の量で二成分系混合物を含有しかつ重



量比約4:1~約6:1のジオール/トリオール: 極性脂質化合物を用いた組成物は、美容的許容性 と増強された浸透性の優れた妥当性又はバランス を示し、したがって針ましい。

任意的战分

上記成分に加え、本発明の組成物は英容上許容される容謀を場合により含有していてもよい。 溶 はは、使用されたとしても、二成分混合系の浸透作用を有意に阻害することはなく、 望ましくは急 速かつ完全に蒸発して、 適用部位に組成物の活性 成分のみを残留させるべきである。 好ましい 溶媒 としては、エタノール及びイソプロパノールがある。

水は本発明の組成物において裕様又は成分として使用することができる。しかしながら、これら 組成物に単に水を加えたのでは、一部又は全部の 浸透性増強化合物を折出させてしまうおそれがあ る。本発明の組成物処方において、このような作 用は系の全体的有効性を有意に減少させる。これ を防止するためには、ヒドロキシイミノビリミジ

るジメチルイソソルビドが本発明において使用されたならば、活性剤 (例えばミノキシジル) の漫 透性は阻害される。したがって、かかる化合物は 本発明の組成物を処方するに際して回避すること が好ましい。使用するのであれば、かかる化合物 は一般にできるだけ控えめに技術上確立されたレ ペルよりもはるかに少量で使用されるべきである。

一定の直鎖状的和 C₄、 C₅及び C₁₈- C₂₀ n

ン活性剤は水免明の組成物に溶解し得ることが重要である。これを達成する1つの方法は、エマルジョン又はゲル処方とすることである。乳化剤又はゲル化剤がこれを達成するために使用し得る。

このような冷域、即ち水、エクノール又は2・プロパノール(イソプロパノール:イソプロピルアルコール)は全組成物中0~約90重量%を占める。エクノール及び2・プロパノールは好ましくは0~約85%の量で存在する。

特定の脂肪酸類も水発明の組成物による浸透を 养しく知客し得る。これらの酸類としては直鎖状 C₄ - C₂₀ 20 和モノカルボン酸及びジカルボン酸 がある。オクタン酸及びデカン酸は本発明の系の ピヒクルにとって特に有客である。好ましい 悠様 において、本発明の組成物はこれらの酸類を実質 上含有せず、即ちC₄ - C₂₀ 飽和モノカルボン酸

4.

及びジカルボン酸のいかなる特定のものに関しても全組成物中約3.5質量%未満、更に好ましくは上記酸類を約1%未満でしか含有しない。特に好ましい態態において、本発明の組成物は上記酸類のうちいかなる特定のものに関しても約0.5%未満でしか含有しない。

本免明の組成物は、医薬組成物中に通常存在する上記列学外の他の相容性補助成分を技術上確立された使用レベルで更に含有してもよい。したがって、例えば、組成物はコンピネーション原法用に更に相容性基学的である。してもように処理的に処理を物理的に処理を動きない。大概を表現してもよい。このような物質は、恐力された場合に、それらがこれら組成される有は、ジメテルインシンの含有はそのようなことがない。英語性剤の設定性を阻害しかちてあるが、一方キサンタンガムの含有はそのようなことがない。英語は表現には、ジメテルインカるが、一方キサンタンガムの含有はそのようなことがない。英語は表現には、ジメテルインカるが、一方キサンタンガムの含有はそのようなことがない。英語は表現には、ジステルインシンカるがない。英語は表現には、ジステルインシンカの含有はそのようなことがない。英語は表現に通常を表現している。

ノビリミジン活性剤の周所適用を有意に改善する。

本苑明の実施による周所治療法は、本苑明の組 成物を直接皮膚に、即ち適用質所に、通常一日に 1~6回燈布することからなる。適用割合及び治 療期間は当然のことながら多くのファクターに依 存する。局所治療のための典型的な安全有効使用 及割合は、1回の適用につき皮膚1cd当たり全局 所用組成物約1 mg - 約10 mgである。当業者であ れば、この適用料合は、望みの効果、治療すべき 症状及びその原囚、その経過及び応答、関係する 面積、治療すべき症状の重算度及び性質、使用さ れる活性剤及び/又は担体の正確な実体、設透阻 害性の溶媒、共溶媒、賦形剤及び脂質の存否、患 者の身体的状態、尖龍中の併用療法、使用される 活性刺又は担体の造皮、並びに正常な医学的判断 の範囲内に属する患者及び/又は医者の具体的知 **湖に関する他のファクターにより変動することを** 認識するであろう。一般に、本発明の組成物は、 合計で約2. 5mg~約100mgのヒドロキシイミ ノビリミジン活性剤が毎日逸布されるように使用

上の許容性を改善するためのこのような処方上の 変更は美容及び皮膚科の技術分野における当業者 にとって適切であるが、それ自体は本発明の一部 をなすものではない。

本発明の組成物は、必須成分たるヒドロキシイミノビリミジン化合物、ジオールもしくはトリオール化合物及び磁性脂質化合物が上記範囲内で存在しかった記憶透阻害成分が最小量とされる限りにおいて、著しい変更を加え得ることは、前述から明らかである。したがって、ゲル、ローション、境別、牧音及び溶液に加え、本発明の組成物はシャンプー、エアゾールスプレー、非エアゾールスプレー又はムースのように処方することができる。

使用方法 --

本売明が大断及びより下等の動物における資毛 刺激方法を提供することは評価される。更に、本 発明の組成物は脱毛を防止するめため発毛領域に 塗布することができる。本発明は、適用部位で皮 満を刺激することなく、英似上許容される皮膚直 接性組成物中の本朝細書に記載のヒドロキシイミ

される。

組成物は24時間毎に1回~1時間毎に1回塗布することができる。4時間毎~12時間毎の塗布間隔が針ましい。12時間毎に塗布する治療法は特に好ましいが、その理由は1回に塗布される活性剤の量を最小にし、しかも頻繁な塗布という不便さを緩和するからである。しかしながら、安全自効量のヒドロキシイミノビリミジン活性剤を関節の部位に到達させ得るいかなる治療法も、本発明の組成物を使用して災難することができる。

下記の限定的ではない例は本発明の組成物を説明している。それらはすべての成分を完全に混合することにより慣用的に処方される。

<u>例1-A</u>

組成物工

6・アミノ・1、2・ジヒドロ・

1-ヒドロキシ・2-イミノピ

りミジン、遊離塩基

5.0%

プロピレングリコール(1. 2・

プロパンジオール)

91.0%

特開昭 63-45212 (11) ノノン オレイルアルコール 4.0% 拟成物IV 机成物皿 6・アミノ・1、2・ジヒドロ・ 6・アミノ・1, 2・ジヒドロ・ 1・ヒドロキシ・2・イミノビ 1・ヒドロキシ・2・イミノビ リミジン、遊離塩基 5,0% リミジン、塩酸塩 1.0% プロピレングリコール(1、2-プロピレングリコール (1, 2 - ・ プロパンジオール) 30.0% 94.0% プロパンジオール) イソセチルアルコール 1.0% オレイルアルコール 5. 0 % 50.0% 組成物皿 14.0% 6・アミノ・1、2・ジヒドロ・ 組成物V 1・ヒドロキシ・2・イミノビ 6・アミノ・1、2・ダヒドロ・ リミダン、遊離塩基 1.0% 1 - ヒドロキシ・2・イミノピ プロピレングリコール (1. 2 -リミジン、遊離塩基 0.5% プロパンジオール) 30.0% プロピレングリコール (1, 2・ パルミトレイルアルコール 0.5% プロパンジボール) 97.5% 50.0% オレイルアルコール 2. 0 % 水 18.5%

租政初业		組成物区	
6 - アミノ・1、2・ジヒドロ・		6・アミノ・1。 2・ジヒドロ・	
1 - ヒドロキシ - 2 - イミノビ		1・ヒドロキシ・2・イミノビ	•
リミジン、遊離塩基	6.0%	リミジン、遊離塩基	2.0%
1. 2・プタンジオール	90.0%	1、3・プタンジオール	93.0%
イソセチルアルコール	4.0%	イソセチルアルコール	5.0%
组成物VI		紅成物 X	
6・アミノ・1、2・ジヒドロ・		6・アミノ・1、2・ジヒドロ・	
1‐ヒドロキシ・2‐イミノピ		1・ヒドロキシ・2・イミノビ	
リミジン、遊離塩基	0.5%	りミダン、遊離塩基	2.0%
1. 3・ブタンジオール	97.5%	グリセロール	93.0%
オレイルアルコール	2.0%	オレイルアルコール .	5.0%
組成物VI		組成物 X 1	
6・アミノ・1、2・ジヒドロ・		6・アミノ・1、2・ジヒドロ・	
1 - ヒドロキシ・2 - イミノビ		1・ヒドロキシ・2・イミノビ	
リミジン、政政権基	0.25%	リミジン、遊離塩基	5.0%
1. 2 - ブタンジオール	97.75%	1. 2・プタンジオール	92.0%
ミリストレイルアルコール	2.0%	オレイルアルコール	1.5%
		イソセチルアルコール	1.5%

机成物 X II

6・アミノ・1、2・ジヒドロ・		
1・- ヒドロキシ・2 - イミノビ		
リミジン、クエン酸塩	1.	0 96
プロピレングリコール (1.2‐		
プロパンジオール)	94.	0 96
イソセチルアルコール	5.	0 %
组成物XII		
6・アミノ・1、2・ジヒドロ・		
1・ヒドロキシ・2・イミノビ		
リミジン、乳酸塩	5.	0 %
プロピレングリコール(1.2‐		
プロパンジオール)	91.	0 %
パクセニルアルコール	4.	0 %
組成物XIV	_	
6・アミノ・1、2・ジヒドロ・		
1・ヒドロキシ・2・イミノビ		
リミジン、遊離塩基	12.	0 %
1. 2. 6 - ヘキサントリオール	54.	0 %
オレイルアルコール	4.	0 %
エタノール	30.	0 %

ピピクルと比較した場合、並びに当該技術分野で 公知の他の局所用ピピクルと比較した場合に、本 出版に記載のピドロキシイミノピリミジン化合物 の浸透性を高めるような本発明の組成物の能力を 明らかにする。

下記接透性試験は記載の知言方法で行なわれた。 操作法は参考のため本明細書に包含されるメリット及びクーパー、ジャーナル・オブ・コントロールド・リリース、第2巻、第161-162頁、1984年(Nerritt and Cooper・Journal of Controlled Release・2 :161-182(1984))に記載されている。人間の皮膚(解剖により操取された熱分離もしくは皮膚採取具による避略表皮、又は切除した十分な厚さの無毛マウスの皮膚)は、新型フランズ(Franz)拡散差置において、下部のキャップの付いたレセプター区と上にいて、下部のドナー区画との間の水平位置に置く(実験は関係された上の間の水平位置に置く(実験は関係された人の皮で倒と接するレセプター区画に加える。試験組成物(慣用的方法で完全に混合することによ

机成物 X V

6・アミノ・1、2・ジヒドロ・

1 - ヒドロキシ・2 - イミノビ

リミジン、遊離塩基		8.	0 %
1. 3・プタンジオール	5	5.	0 %
オレイルアルコール		1.	0 %
イソプロパノール	3	6.	0 96

下記の限定的でない例は、本発明の組成物及び 方法を説明している。

例 1 - B

組成物 1 は、硬毛の育生を刺激するため、1 日 3 回皮腐成当たり組成物 5 転の割合ではげた人間 の頭皮に塗布される。実質上周様の結果は、組成 物が上記組成物 Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ又は V で代替された場 合にも得られる。

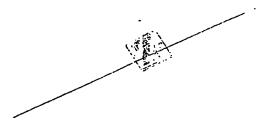
设进性试验

浸透性試験では、本発明の組成物及び方法における浸透性増強能を延明する。これらの試験は、 必須極性脂質化合物の非存在下で処方されたプロ ピレングリコール又はプロピレングリコール含有

り、下記処方で担体に加えられた活性剤の溶液からなる)を、皮膚の炎皮膚と抜するドナー区画に 役示された量で加える。

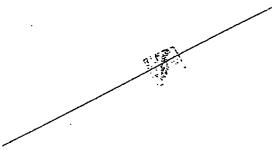
レセプター溶液を一定温度の約37℃に保つ。 適切な又は所限の間隔で(下記例には時間表示が ある)、レセプター区画の拡散物をサイドアーム (sidears)で回収する。拡散物中の薬剤活性レベルを振弊分析法により制定する。各々の試験は別 々の皮膚試料で行なう。

下記実験は人間の皮膚を用いて行なった。 20 μ』の投与量(ミノキシジル7000με/cd)を0及び24時間目に与えた。適用されたミノキシジル設度は70ェ/』で、セル面積は0.2cdであった。8回の同一は数を各被験処方刻毎に繰返した。平均値は下記表に示されている。



		ŧ	<u>a</u> .	<u>\$</u>	
成 分	A	<u>B</u> ‡	<u>c</u>	<u>D</u> *	<u>E</u>
ミノキシジル(Minoxidii ^R) ⁱ	7	7	7	7	7
プロピレングリコール・	93	92	92	88	88
オレイルアルコール	-	1		5	-
アソン(Azone [®]) ²	-	-	1	-	5

- 本発明の組成物
- 6-アミノ・1、2-ジヒドロ・1・ヒドロキシ・2・イミノ ピリミジン、遊離塩基
- ² 1 ドデシルアザシクロへプタン・2 オン、ネルソン・リサ ーチ・アンド・デベロップメント社(Nelson Research & Dovelopment Corporation)、アービン、カリフォルニア州が市販 する皮膚浸透性均衡剤

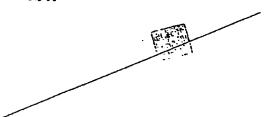


上記実験操作により、本発明の数理の組成物の 皮膚浸透能を測定した。コントロール組成物はそ ノキシジル1%、並びにプロピレングリコール 15%、エタノール65%及び水20%からなる ピヒクルを含有していた。この組成物は従来開示 された典型的ミノキシジル組成物(例えば米国特 許算4、139、619号明知書)である。本発 明の組成物は、次いで、それが0.5%、1.0 %、2. 5%、5. 0%又は10. 0%のピヒク ル成分を含有するように、オレイルアルコール又 はイソセチルアルコールを加えることにより調製 した。5つの同一型製物を1処方につき試験した。 2.4時間にわたる活性成分の累積的径通量は下記 表に示されている。

これらのデータは、従来開示された典型的ミノ キシジル処方剤と比較した場合に、本発明の組成 物にあっては明確な皮膚浸透効果があることを延 明している。

			男 技士 g/cd)	<u> </u>	定在状態流量 (μ g /cg//hr)
机成物	0-4 時間	0 – 7 <u>មរុស</u> ្ស	0-24 <u>時間</u>	0-48 時間	7-48時間
A	ND3	ND	15	29	0.7 ± 0.2
8‡	4.3	31	930	3100	73±25
С	ND	ND	15	37	1.0± 0.2
D‡	15	81	1400	3500	90±18
E	8.5	47	1400	3000	71±16
变的年4	+59%	+53%	+25%	+20%	
	-37%	-53%	-20%	-17%	

- * ミノキシジルは大多数の試料で検出されなかった(検出限界= 0. 5 µ g / cd)
- 4 幾何平均の累積的標準調益。非対称限界は対数正規分布の掃結 である.



人間の皮膚を介するミノキシジル (1%) の浸透 (プロピレングリコール15%/エタノール65%/水20%)

ニールエンルノーテノールロンルノルといる。
采载的 没透 量(2.4時間)
u g/cil(x±SD) 投与率%(x)
5. 3 ± 4. 5 0. 7
102. 5± 40. 9 14. 4
101. 9± 12. 4 14. 3
161. 2±101. 3 22. 6
147. 9± 37. 4 · 20. 7
169. 4± 35. 0 23. 7
某粒的投资量(24時間)
μg/ci (x±SD) 投与4% (x)
25. 2± 12. 7 3. 5
137. 8± 65. 7 19. 3

133. 8± 46. 0

105. 7± 14. 2

149.5± 33.8

136. 0± 50. 6

14.8

20. 9

19.0

1. 0

2. 5

5. 0

10.0

上記実験操作により、本発明の致殺のトリオー ル合有組成物の皮膚浸透能を測定した。被駄処方 削は、下記の浸透結果とともに最初の表に組載さ れている。5つの同一則刻物を1処方につき試験 した。

人間の皮膚を介するミノキシジル (1%) の浸透

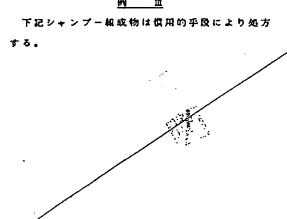
		C C 7 /	UNIDE	(76W	t/w	1)_
	1	2	<u>3</u>	4	<u>5</u>	<u>6</u>
プロピレングリコール	15	15				
グリセロール			15	15		
1. 2, 6 - ヘキサントリ オール					15	15
エタノール	65	64	6 5	64	6 5	·64
水	20	20	20	20	20	20
オレイルアルコール		1		1		1

異数的投资量(24時間)

x±SD (ug/cm) - 31+12 194+43 54+11 80+21 70+48 102+72 投 与 率%

実質上間様の結果は、上記組成物中のオレイル アルコールが全部もしくは一部イソセチルアルコ ールで代替された場合、又はプロピレングリコー ルが全部もしくは一部1、3・プロパンジオール、 1, 2 - ブタンジオール、1, 3 - ブタンジオー ル、1、4・ブタンジオール、グリセロール、1, 2. 6・ヘキサントリオールもしくはそれらの混 合物で代替した場合に得られる。

PN III



FU C

下記組成物は慣用的手段により処方した。組成 物1~3はローションとして処方し、組成物4~ 6はムース製品として処力した。ミノキシジル活 性剤の (24時間にわたる累積的) 皮膚浸透性を 上記方法により測定した。5つの同一期刻物を1 処方につき行ない、平均値を示す。

			紕	政%		
	1	2	3	4	5	6
プロピレングリコール	15.0	10.0	10.0	10.0	12.5	15.0
プロピレングリコールモノ ラクテート			5.0			
ラクトアミド		5.0				
オレイルアルコール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
エタノール	64.5	64.5	64.5	.20.0	20.0	-20.0
水	20.0	20.0	20.0	86.L	85.8	89.1
ステアリン酸				1.0	1.0	1.0
キサンタンガム				0.2	0.2	0.2
50%KOH				0.2	0.2	0.2
ミノキシジル1	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
采载的浸透量(μ g /ol)	84.8	42.0	46.7	58.1	70.6	54.5

战 分	96 w / w
6 - アミノ・1、2 - ジヒドロ・1 - ヒドロキシ・2 - イミノビリミ	•
ジン、遊雄塩基	1. 0
オレイルアルコール	0.5
プロピレングリコール	15.0
亜鉛ピリチオン	4. 0
アルミニウムラウリル硫酸	30.0
アンモニウムAE ₃ 裂酸	30.0
アンモニウムキシレンスルホン酸	4.5
ココナツモノエタノールアミド	4. 0
エチレングリコールジステアリン酸	3. 0
芳香剤、色染、保存剤及び他の	
微量成分	1. 0
水 残部会	≥ 100

上記組成物は配毛の育生を刺激するためにシャ ンプーとして1日1回 (10g/投与) 頭皮上に 使用する。・

実質上同様の結果は、上記組成物中のオレイル アルコールが全部もしくは一部イソセチルアルコー ールで代替された場合、又はプロピレングリコー

ルが全部又は一部1.3・プロパンジオール、1.2・プタンジオール、1.3・プタンジオール、1.4・プタンジオール、グリセロール、1.2.6・ヘキサントリオール又はそれらの混合物で代替された場合に得られる。

出願人代型人 佐 盛 一 進

第1頁の続き

◎発 明 者 ロナルド、リー、スミ アメリカ合衆国オハイオ州、ウエスト、チエスター、デボ

ス ンウッド、ドライブ、7588

砂発 明 者 ウイリアム、アール、 アメリカ合衆国オハイオ州、シンシナチ、メンズ、レー

スナイダー ン、6772

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載 【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成7年(1995)3月14日

【公開番号】特開昭63-45212

【公開日】昭和63年(1988)2月26日

【年通号数】公開特許公報63-453

【出願番号】特願昭62-146806

【国際特許分類第6版】

A61K	7/06	8615-4C
	31/505	9454–40
	31/535	9454 – 4C
	31/55	9454–4C
	47/10	E 7433-4C

人源均值符

の「特許許求の展別」の値

特許徴求の範囲

[產]

1. (1) 下記式のヒドロキシイミノビリミジン化合物:

 $[上記式中、R_2及びR_3は水素、低級アルキル、低級アルケニル、低級アラル$ キル及び低級シクロアルキルから選択されるが、一緒になって R_2 及び R_3 はア クリグニル、アゼチグニル、ピロリグニル、ピペリグノ、ヘキサヒドロアゼピニ ル、ヘプタメチレンイミノ、オクタメチレンイミノ、モルホリノ及び4 - 低級ア ルキルピペラジニルから選択されるヘテロ保部分であってもよく(上記ヘテロ環 部分の各々は炭素原子上に置換基として0~3個の低級アルキル甚、ヒドロキシ 又はアルコキシを結合している)、上記式中、R $_1$ は水紫、低級アルキル、低級 アルケニル、低級アルコキシアルキル、低級シクロアルキル、低級アリール、低 級アラルキル、低級アルカリール、低級アルカラルキル、低級アルコキシアラル キル及び低級ハロアラルキルから選択される)

及びその要学上許容される酸付加塩の安全有効量;

(1) 水、エタノール又は2・プロパノールから選択される溶媒0~90 重量%:並びに

(c) (i) 1, 2 - プロパンジオール、1, 2 - プタンジオール、1, 3 -プタンジオール、2、3・プタンジオール、 C_3 ー C_6 トリオール類又はそれら の配合物から選択される小極性熔煤、及び

(ii) C_{16} モノ不約和アルコール間、 C_{16} 分岐的状態和アルコール類、 C_{12} モノ不知和アルコール環、 C_{12} 分岐頃伏アルコール環及びそれらの混合物か ら選択される医性指質化合物



から突変上なる浸透性増強値体5~99.9 変重量% (上記)極性的謀及び上記性 性能質化合物は、1:1~500:1の溶媒:医性能質化合物の重量比で存在する);

を含育することを特徴とする周所性布用浸透性増強尿薬組成物。

- 2. 小極性熔越が1. 2 プロパンジオール、1. プタンジオール、1. 3 プタンジオール、2. 8 プタンジオール又はそれらの混合物から選択される、特許請求の極端第1項記載の組成物。
- 3. 0.01~10重量%のヒドロキシイミノビリミジン成分を含有する、 特許確求の原用第1又は2項記載の組成性。
- 4. ヒドロキシイミノビリミジン成分から・アミノ・1。2・ジヒドロ・1 ・ヒドロキシ・2・イミノビリミジン及びその繁学上許容される酸付加塩から選択される、特許線収の範囲第1~3項のいずれか一項に記載の世成物。
- 5. 小極性治域:極性超質化合物の重量比が5: L ~ 100: 1である、特殊強力の配用第1~4項のいずれか一項に記載の組成物。
- 6. 医性脂質化合物がオレイルアルコール、イソセチルアルコール及びそれ もの混合物から選択される、特許額求の範囲第1~5項のいずれか一項に記載の 組成性。
- 7. 小低性特媒化合物が1.2-プロパンジオール、1.2-プタンジオール及びそれらの混合物から選択される、特許請求の範囲第1~6項のいずれかー項に記載の起成体。
- (a) 木、エタノール又は2 プロパノールから選択される溶棋0~9 0 登量分:並びに
- (a) (i) -1, -2 プロパンジオール、-1, -2 ブケンジオール又はそれら の配合物から選択されるジオール
- (ii) \mathbf{C}_{11} モノ不枯和アルコール類、 \mathbf{C}_{11} 分数数状粒和アルコール類、 \mathbf{C}_{11} モノ不粒和アルコール類、 \mathbf{C}_{11} 分数類状粒和アルコール環及びそれらの混合物から避択される極性所質化合物

から実質上なる浸透性物故風体5~99.5室量%(上記ジオール及び上記集性 階質化合物は、10:1~100:1のジオール: 極性態質化合物の重視比で存在する):

を含有することを特徴とする局所能布用浸透性増強医原組成物。

- 9. ジオール化合物が1.2・プロバンジオールである、特許額次の範囲第 8項記録の組成物。
- 10. 極性対策化合物がオレイルアルコール、イソセチルアルコール及びそれらの複合物から選択される。特許抗攻の範囲第8又は9項記載の組成的。
- 11. C_4 、 C_6 もしくは C_{18} - C_{10} 位輸状絵和n-I記防アルコール類及び C_4 - C_{20} 位載状絵和モノーもしくはジカルボン版を実質上含有しない、特許請求の範囲第1~10項のいずれか一項に記載の組成物。